

クロージング

高橋清久（精神・神経科学振興財団）

大島巖（日本社会事業大学）

伊藤順一郎（メンタルヘルス診療所 しっぽふぁーれ）

宇田川健（NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ）



リカバリーフォーラムの最後には、必ず「クロージング」のプログラムを設けます。

クロージングでは参加者の方達に、自分が参加できなかったプログラムで話し合われたことや雰囲気を実感していただくために、グループトークを行いました。

大教室に集まった参加者はおおよそ 300 人。近くに座っている参加者の方々が声をかけあい、5～6 人前後の小グループをつくり、自己紹介をし、それぞれの分科会の内容や話し合われたこと、今後のリカバリーフォーラムに期待することなどについて話し合いました。



おおよそ 20 分の話し合いの時間はどのグループも大いに盛り上がり、会場は、熱気に包まれていました。

話し合いの時間が終了し、7 グループの代表者から、話し合ったことや参加しての感想を発表してもらいました。

以下は発表された内容の一部です。



——ピアの活動が全国で活発になっていることに刺激を受けた。ただ、専門職の人たちがピアの活動のことをあまり知らないことが残念。

——分科会が非常に充実していた。ここに来ることができる人たちはいろいろな情報に接することで刺激をうけて帰ることができるが、ここに来れない人や、情報のない人たちに、こうした新しい考え方や活動を知らせる工夫を考えていきたい。

——ここに来たことによって、当事者の声をたくさん聞くことが出来た。

——立場が違って、抱えている悩みが同じであることがよくわかった。

——リカバリーとは、就労したり、病気が完治して治ることだけではなく、もっと違う意味のリカバリーがあることがよくわかった。大変苦しんでいる人たちがたくさんいるけれど、一瞬でいいから、生きていて良かったと感じたり、笑顔をとりもどしたりすることがリカバリーだと思った。

——自分は弱い人間だが、まわりの人に支えられていることがよく分かった。ピアの力を広げて、世の中を変えていきたい。

——当事者・家族のパワーがものすごかった。意識が変わった。元気になった。

などの感想が語られました。

最後に、会場全体で、「オー！」というかけ声で集合写真を撮影して、クロージングセッションを終了しました。

《丹羽大輔（NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ）》